

## 県立阪神昆陽特別支援学校 学校関係者評価

2016. 3. 9

1 教職員定時退勤日（ノー残業デー）、「ノー部活デー」、「ノー会議デー」の設定等により、教職員の超過勤務の縮減を図る。	
成果	<p>教職員定時退勤日を意識する職場の雰囲気がある。</p> <p>生徒指導要録をパソコンで作成できるようになった。事務処理の簡素化につながる可能性がある。</p>
課題	<p>過勤務をせざる負えない現状である。</p> <p>ノー残業等を設定して、帰るようにつとめているが、仕事自体の煩雑さはさほど変わっていないので、仕事が後回しになっていると感じる。</p>
学校評議員からの ご意見	<p>評価点が H25 年度以降低下（3.5 →2.9 →2.7）している。3 学年全生徒が在籍する過程で教育業務が一層増加していることが伺える。超過勤務せざるを得ない状況であるが、是非とも「ノー残業デー」は定時に退勤する。同時に教材研究や授業の準備の時間の確保にも努めていただきたい。</p> <p>頑張るだけでなく、今後のあり方を改めて考えて将来を見つめ直す。</p> <p>阪神昆陽高校と同様、学校歴 4 年も経過すれば、がむしゃらに頑張っ、何とか教育の成果を挙げるとばかり言えない状況も、起こってくるのが考えられる。愈々 5 年目、この期に改めて、草創期来の来し方を振り返りながら、将来を見据えての本格的学校体制の確立に思いを馳せたい。（勿論これまでのあり方を否定しようとするものではない）</p> <p>超過勤務に耐えられて頑張られていることは大変よく理解できますが、多忙感、今の学校現場での最大の課題だと思います。生徒によりよい教育をするには、先生方の健康が大変重要だと思います。</p> <p>「ノー残業デー」、「ノー部活デー」、「ノー会議デー」をきっちり守るように皆さんで声かけをし、意識をすることで、仕事の仕方も変わってくると思います。ノー残業デーでは、一斉に帰宅することで、仕事を計画的にすることができるかもしれません。それから、仕事にスクラップアンドビルドの発想を入れて、新しいことをするならば、何か古いことをやめないと仕事量は増えるばかりです。断捨離の精神を仕事にも導入する必要があるかもしれません。</p> <p>両校が協力して学校運営されていることはすばらしい。</p>

2 社会的ルールやマナーについての教育を徹底し、社会的自立を図る。	
成果	<p>学年が進むにつれて日々の指導の目標が自立に向かってきていると感じる。</p> <p>個に応じた生徒指導ができた。特に、生徒指導部が中心となり、特別指導委員会が迅速に開催され、教員の共通理解のもと指導ができた。</p>
課題	<p>教員によって指導にばらつきがあり生徒が混乱する事がある。</p> <p>年々増加している、不登校気味の生徒への対応を検討する。</p>
学校評議員からの ご意見	<p>不登校傾向の生徒への対応と同時に、それらの生徒がなぜ増加しているのか、その原因についても中学校の出欠状況、障害特性、家庭環境、入試のあり方等々から分析、検討していただきたい。</p> <p>当然の事ながら、不統一な教員の指導体制では、生徒たちの不安や混乱、迷いが避けられなくなり、結果的にそれが不登校へと移行する事も起こりえる。各家庭の協力も得ながら、クラス、クラブ等の指導の枠を超えた、「学園は一つ」の共同体づくりも目指して欲しい。</p> <p>生徒指導の項目は設立時より評価も上がっていて、充実してきたのが理解できます。ただ、社会的ルールやマナーが昨年度3.3から3.1になった理由は何かを検討する必要はあると思いました。昨年度の良かった部分を再現するにはどうすればいいかを検討し、実践されれば、少しはよくなると思いました。</p> <p>さて、教員の指導のばらつきに関しては良くないと思います。この件に関しては学校全体の方針を再度確認し対応してください。生徒も混乱しますし、保護者の信頼も崩れることになると思います。</p> <p>不登校気味の生徒の対応に関しては、高等学校のキャンパスカウンセラーに相談されるのもいいと思います。</p> <p>不登校には、様々な原因が考えられる。家庭環境も影響があるようだ。</p>

3 生徒の卒業後を見据えた進路指導計画、企業及び関係機関等との連携を密にした進路指導について	
成果	新規企業開拓を積極的に行い、開拓できた。新規の就労移行支援先も開拓し、生徒の進路先として、また、離職した後の受け皿としてできた。
課題	卒業後の進路（居住地や就労先）がなかなか決まらないケースへの対応。 知的障害者の就職に関する知識を学び、各関係機関との横のつながりを持つ。
学校評議員からの ご意見	<p>新規企業、就労移行支援先の開拓に積極的に取り組まれている。評価点も H25 年以降着実に向上している。4 月から改正障害者雇用促進法施行及び今後の労働人口縮小のなかで、本校生徒の進路についてはさらに拡大していく可能性もあるが、知的障害者の就労（一般、福祉を含む）、社会経済生活、結婚、犯罪、人権とその擁護等から彼ら（彼女ら）の成人生活について研修し、理解を深めていただきたい。これらの研修内容の一部は教育内容、方法やカリキュラム検討に役立つものと思われる。</p> <p>過去 4 年間の評価点の推移を分析しながら、下降した、上昇した、継続的に成果が得られた等の対比の中で、これらを最後の仕上げ資料として、次年度に生かしてほしい。とりわけ、交流及び共同学習、「共同の学び」の中での「タイプ B」の受講奨励指導等のお願いをしたい。</p> <p>新規企業開拓本当にご苦労さまです。評価も年々上がってきています。そして、高校と同じ現象として、昨年度始めて卒業生を出すことで、進路意識が各先生方に鮮明に意識されたため、議題に上がっているように思います。</p> <p>進路指導の経験の少ない先生方には、やはり自分の体で覚えていただくことが必要かと思います。予算的な余裕があるならば、できるだけ若い先生方が就職現場を見に行くという経験をされることを勧めます。そこで感じたことを基に、生徒の進路指導をすることで少しずつ身につけていくのではないかと思います。長期休業中などを利用して研修することも意義があるかもしれません。</p> <p>関係機関との連携をさらに進めていただきたい。</p>

4 交流及び共同学習に係る委員会等を実施し、両校職員の共通理解を図ることについて	
成果	<p>共同で部活動に取り組むことにより、練習意欲が高まり、試合会場での交流も深めることができた。</p> <p>併設の高等学校教員と連携をとりながら、昨年よりも充実した共同の学びの授業が展開できた。</p>
課題	<p>両校の「共同のまなび」担当者が打合せをする時間の確保</p> <p>まだまだ取り組みが足りない面がある。</p> <p>2年生で高校の授業を選択する生徒が少ない。</p>
学校評議員からの ご意見	<p>ノーマライゼーションの理念を実現するためにも「共同の学び」の授業、部活動、学校行事等の内容の充実に努めていただきたい。評価点について2校の平均点に若干の開き（3.0—3.6）がみられるため、両校教員間での意見交流や検討もお願いしたい。</p> <p>全体的な学校生活、二校併設されている学校の教育活動のあり方として、学校経営方針に位置づけられているように、社会におけるノーマライゼーションの理念を進展させる礎の役割を担ってほしい。</p> <p>交流及び共同学習は阪神昆陽特別支援学校において、すごく重要なテーマだと思います。本当に先生方のご努力によって大きな成果がでてきているように思います。もっともっとという思いは十分理解できますが、少しペースダウンしてでも今できていることを再確認することが必要ではないでしょうか。そしてあまり時間をかけずにうまく出来る所と、今年はこの部分は時間をかけても頑張っているというメリハリをつけてするのはどうでしょうか。交流と共同学習は今後も続いていくので、あまりしゃかりきにすると先生方の疲弊感を増すことになると思います。</p> <p>交流と共同学習を特別支援関係の学会ではなく、一般の教育学会や教育心理学会などに発表され、この成果を広く一般に問えばいいと思います。</p> <p>2年生で高校の授業を選択する生徒が少ないそうですが、それならば、高校から特別支援の授業に多くきてもらうなどを考えられるといいなと思いました。また、特別支援の先生が高校で授業をし、高校の先生が特別支援で授業をする教員のスイッチは教員にとっても大変有意義なことで、もっと広めていければと思います。</p> <p>10, 20年後をにらんで、この2校をどうするのか考える時期ではないか。急ぐ必要はないと考えている。</p> <p>生徒の幅広いニーズに対応しようとする取り組みには感心する。</p>